

多国籍企業のサプライチェーンと CSR

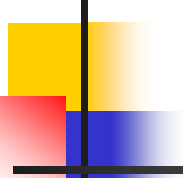


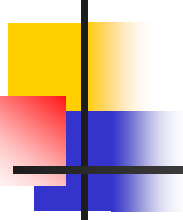
UIゼンセン同盟
逢見直人

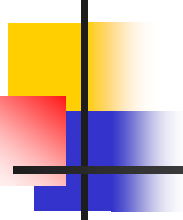


1)なぜ、CSRをサプライチェーンでまで実施しなければならぬのか。その理由は妥当なものなのか。

- CSRのイニシャチブは「企業独自の倫理的認識から、またNGO、労働組合、倫理的と投資家、社会的意識の高い消費者からの圧力によって促される」
- ILO「グローバル化の社会的側面に関する世界委員会」報告

- 
- グローバリゼーションの中で持続可能な発展を求める動き
 - 地球環境 貧困・人権についても企業に対する取り組み強化の要請
 - 人権や労働は市民社会における普遍原理として、あらゆる国家、企業、その他の組織において遵守されるべきであるという認識
 - 企業は社会にとって有用な存在でなければならないという考え方の幅広い支持
 - ILO「三者宣言」の採択 多国籍企業の行動原則を定める
 - 環境、社会の領域で監視、調査、提言するNGOの企業活動モニタリング
 - 地域社会、サプライヤー、消費者などへの企業の説明責任を求める動き

- 
-
- 企業行動規範の適用範囲をサプライチェーンまで広める
 - NGOはサプライチェーンを含めた企業行動を監視する
 - 労働組合はサプライチェーンまで含めた枠組み協定の締結を求める
 - 効果的なモニタリングと認証



もし、実施するとするならば、どのような問題領域で、どこまでするべきなのか。特に労働基準をサプライチェーンにおいてどのように扱うべきか。

- 現地国の法律の遵守
- 児童労働
- 健康と安全
- 労働者の権利 (結社の自由及び団体交渉権)
- 差別的取扱いの禁止
- 虐待的懲罰、強制労働の禁止